

第一節 有限の命の中で

なぜ命に限りがあるのか

普段は感じない思いが

何かをきつかけに、普段は感じないような思いが込み上げることはないでしょうか。大自然の中に身を置いたとき、「人間は何と小さいのだろう」「どのくらいの時間をかけ、この自然がつくられたのか」と思ったり、ありが餌を運ぶ姿を見て、「小さな体でも、一生懸命生きている」と感動したりすることもあるでしょう。あるいは、昔の人々の暮らし方を知り、「今は当たり前のように電気やガスを使えて、本当に便利で恵まれている」「先人のおかげで、今の時代がある」と感謝する心境になるかもしれません。

物事を見る視点が違うと

人類は、壮大な宇宙空間の中で、あまたの生命体が存在する地球に誕生し、今日まで命

をつないできました。こうした大きな視点から見たとき、「悠久の歴史から見れば、自分の人生は一瞬にすぎない」、あるいは「多種、多様な生物がいる中で、人間として生まれたこと自体が奇跡ではないか」「どの命も、長い歴史の中で受け継がれてきたと思うと、尊く感じる」などと、さまざまな思いが浮かぶかもしれません。

日本の最高峰である富士山は、山梨側から、静岡側から、そして飛行機からでは、見え方が違います。国内では一番の高さを誇っても、ヒマラヤやアルプスの山々を見た人からすれば、低く感じることでしょう。人は、自分の視点や感覚から物事を捉えますが、それはごく一部しか見えていないことも往々にあるものです。

この世の真実が見えれば

この世には、多くの命が存在しています。その中には、生まれる命もあれば、閉じていく命もあります。これが、絶えず繰り返されているのは、なぜでしょう。命がいつか終わる定めがありながら、人はなぜ生まれてくるのでしょうか。自分が生きている原点ともいえる命の真実が見えてくると、きつと新たな思いが込み上げてくるはずですよ。

神 示

全ての命が 存在 なぜ有限であるのか 教えん

この世は 全てが神の手の中 運命実体が重なり 補い合って 巡っている
運命の元は魂